様式２

令和6年度　自 己 評 価 表

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

中長期目標（学校ビジョン）	○社会の中で自立して生活ができる力を育成する ○職業生活に必要な意欲と能力を育成する ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体を育成する

今年度の重点目標	職業人としての基礎的な力の育成
	地域社会とつながりながら生きる力の育成
	働きやすい職場、一人一人が成長できる組織づくり

年度当初					評価結果（３）月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過･達成状況	評価	改善方策
職業人としての基礎的な力の育成	○授業改善 ～「協働性」を高める～	○協働性を取り入れた学びへの意識が高まっている。しかし協働性の捉え方が一面的になっていたり、教科の目標設定があいまいになっていたりすることから、さらなる授業改善が必要である。	○教職員が教科の目標を意識した授業改善が行われ、専門コースの特性（教科の目標）に応じた協働性を効果的にとり入れている。	○教科グループごとに授業づくりの研究会を設定し、目標達成のための授業になるように、PDCAサイクルで年間を通して授業改善に取組む。 ○外部講師を招聘し、学習指導要領解説について理解を深めたり、授業研究会で協働性を取入れた学習について検討を行ったりする。 ○教育検証プロジェクトに継続して取組み、教職員で成果と課題について共有する。	○協働性を方法として捉え、授業改善に取り組めた。 ○研修会を行い、教科の目標を意識することの重要性を確認した。 ○学習指導要領を確認し、専門コースの教科の目標を意識した年間指導計画を作成した。	A	○教科の目標、何を学ぶのかを明確にする年間指導計画、指導内容表、教材研究を引き続き行っていく。
	○キャリア発達を見据えた職業教育、進路指導の充実 ～自分を見つめる～	○「一般就労」に向けて、専門共通目標を設定し、日々の活動に取組んでいるが、生徒及び教職員の意識は様々である。	○生徒及び教職員が、「一般就労」や「専門共通目標」の達成を意識しながら日々の実習に取組んでいる。	○各コースの実態に応じた目標設定や振り返りの方法を検討する。 ○学科会やコース会等を活用して、指導方針、指導内容の共有と改善に取組む。 ○コースチーフを中心とした効果的なコース運営を行う。	○専門教科の目標と「専門共通目標」を区別するために「専門教科チェック項目」に名称変更したり、業務日誌のレイアウトを工夫したりすることで、授業のねらいを意識して授業づくりに取組む教職員が増えてきた。 ○教職員アンケートに「職員間の技術の伝達が十分でなく、学年によって差が出るコースがある」との回答があった。	A	○継続して、研究・研修担当と連携して、校内研修や授業改善および年間指導計画の検討に取組む。また、進路部との情報交換を密にし、「一般就労」に向けて必要な力の検討を行う。 ○職員同士の技術の伝達のために授業を見合ったり、技術伝達のためのコース会を設定したり等、コースチーフを中心としたコース運営を行うように計画する。
		○自己理解が難しく、進路選択の見極めが不十分な生徒がいる。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性が不十分なままに就職する生徒がいる。	○（１年生）自分の良さと課題を理解している。 ○（２年生）自分の適性をふまえて、進路を具体的に考えている。 ○（３年生）自分の適性をふまえて、進路を選んでいる。	○現場実習の学びが日々の学習や生活につながるように、学年団、学科部、進路部が連携して計画的に職業教育を実施する。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性を高めるために、生徒、教職員に対して授業や研修、通信等で卒業後の生活に関する情報を発信する。	○現場実習では、学年団や学科部と進路部が連携することで、生徒の希望や適性に合った企業とのマッチングや課題の共通理解ができている。 ○その時期に必要な内容や、生徒、職員のニーズを受けて行事や研修を行っており、意識の向上に繋がった。	A	○引き続き、現場実習と授業のつながりを意識して、教科担当者や学年団と進路部との連携に努める。 ○生徒、職員の進路指導に対する意識を更に向上させるために、引き続き行事や研修の内容を深めてキャリア教育の充実をはかる。
	○生徒指導、生活指導 ～よりよい生活習慣、判断力をつける～	○「生徒心得」の学校ルールが十分に徹底されていない。 ○登下校時の駅でのマナー等で外部から指摘を受けることがある。	○社会の中の一員として挨拶、時間厳守、身だしなみ、交通マナー等を守って生活できる。	○「生徒心得」等のルールを守る重要性や意義を理解させるため、全学年間で統一した指導方針をLHRや朝の会、帰りの会を活用して随時指導する。 ○学期に1回の登下校指導や生徒会と連携した活動を設定する。	○生徒会と連携し挨拶運動や生徒玄関で朝の立ち番を行うことで、自分から挨拶が難しい生徒も挨拶を返すことが増えてきた。学期ごとに指導部を中心に登下校指導を行ったことで、ＪＲのマナーを守って行動することができた。	B	○挨拶、時間厳守、身だしなみ等の基本的生活習慣、集団規律を習慣化できるよう、個に応じた一貫性のある指導を継続して行う。
		○歯磨きが習慣となっている生徒がいる一方、習慣化されていない生徒もいる。 また、歯磨きの習慣は身に付いているが、方法が不十分な生徒が多く、口腔内の清潔が保たれていない生徒が多い。	○自分の歯と口の健康に関心を持ち、主体的に行動しようとする生徒が増える。	○委員会活動で啓発を行い、意識を高めたり理解を深めたりする。 ○関連教科等と連携を図りながら取扱っていく。	○関連教科等での学習、学校歯科医を招聘しての講演会等を通じて、歯と口の健康に関心を持ち、食後の歯磨きに多くの生徒が主体的に取組んだ。また、昨年度より、う歯での受診率が上昇した。	B	○引き続き委員会や関連教科等での定期的な啓発を実施する。 ○歯科受診等について、学年との連携や保健だより等での啓発を実施する。
		○生徒同士が関わり合いながら目標に向かって取組むことを通して、他者の意見や助言を聞くことや、授業で互いに勉強を教え合ったり話合ったり声をかけ合ったりする行動が見られるようになってきている。	○協働性を意識した活動を通して、考えを深めたり相手を尊重した態度を養ったりする。	○ＨＲや学年集会などで、生徒が主体的に活動したり、生徒同士で活動したりする場面を設ける。 ○学年部と生徒指導主事とが連携し、基本的生活習慣や規律など、学級内で振り返る機会を設定する。 ○学年主任会で各学年の取組みや実態を共通理解し、必要な学習内容について検討する機会を設ける。取組んだ内容について記録をまとめる。	○生徒アンケートを行ったところ、全体の９７％が本校で学んだことでわかるようになったことやできるようになったことが増えたと回答している。 ○生徒アンケートの結果から、学習の中で仲間と力を合わせて取り組むことが継続してできていることがわかった。また、生活習慣やマナー（挨拶等）の項目では、前期と比べて大きな変化がないことから取組の工夫が必要である。 ○教職員アンケートでは９割が肯定的評価及び生徒の変容を感じている。	A	○協働性を意識した取組について声かけや共通理解をし継続して行う。また、普通教科や専門教科で学習内容について検討する機会を設ける。 ○学習の振り返りや理解度の確認を大切にした取組を計画・実施する。（ICT活用） ○学部主事、学年主任、生徒指導主事の細やかな情報共有、連携を継続する。
		○寄宿舎生活チェック表では、実態と乖離した自己評価をしている舎生が半数以上おり、苦手な項目を把握できていない状況が見られる。	○苦手なことでも自分で折り合いをつけたり、職員に支援を依頼したりして上手く行動できている。	○生活チェック表を活用しながら苦手な項目についてはどのように折り合いをつけるかアドバイスしたり、必要な支援を一緒に考えたりする。	○苦手なことを必要以上に思い悩むような舎生の姿は見なくなった。折り合いをつけながらうまく行動できるようになった。	A	○舎生が苦手なことに折り合いをつけるだけでなく、前向きにそれにチャレンジするように、生活チェック表を活用しながら、舎生を勇気づける支援を続けていく。
	○学校運営協議会の活用 ・地域連携・企業連携の充実	○昨年度、学校運営協議会を３回実施した。会議以外にも専門教科成果発表への参観により、より学校の様子を知っていただくとともに、生徒の励みとなった。また、地域と一体となった取組がコロナ前の状況に戻りつつある。	○幅広い分野から参加いただいている委員の方からの助言を受け、本校の魅力発信、地域と一体となった取組へとつなげていく。	○引き続き地域や企業の方の来校や地域に出かけての活動等、地域と関わる取組を進める。 ○地域との関わり、本校の魅力（生徒の活躍、取組の様子等）を積極的に発信する。	○第２回の学校運営協議会では、専門教科成果発表会を参観していただいた。感想や指導講評から、今後の専門教科に取組む上での課題、成果を明確にすることができた。 ○学校説明会等で小、中学校児童生徒、保護者、教職員、地域の方に対して、「就職、教育課程、進路指導」をポイントに本校の特色を説明し、魅力を発信した。 ○地域に出かけての活動は、R5年度と比較して大きく増加した。地域からの来校者も増だった。	A	○来年度も学校運営協議会を３回実施し、委員の方からの助言をいただく場面を増やしていく。 ○引き続き地域の方の来校や地域に出かけての活動等、地域と関わる取組を進める。

様式２		○昨年度は、企業を対象とした学校公開「企業参観日」を１１回実施した。 ○企業とのつながりを作ったり保ったりする工夫が必要である。	○年間を通して実習先の１０％以上の企業が新規開拓企業である。 ○企業参観日を年間１０回以上実施し、現場実習の受入れに繋がっている。	○関係機関との連携や企業情報データベースの活用を通して、積極的に企業新規開拓を行う。 ○企業参観日の案内を積極的に行う。 ○本校の取組や障がい者雇用について情報発信を行ったり、生徒とのマッチングに繋げるために企業のニーズを吸い上げたりする。 ○学校運営協議会において、就労の視点も含めて協議を行う。	○積極的に企業新規開拓を行い、現場実習の新規開拓企業は第１回が34.9%、後期30.2%と目標を大幅に上回った。 ○企業参観日を１０回実施し、本校の取り組みや障がい者雇用について情報発信を行い繋がりができた。（現在９回実施。２月に１０回目を実施予定） ○就労促進セミナーを実施し、本校のPRができた。アンケートによる企業の満足度も高かった。	A	○企業との連携を進めるために、学校運営協議会で引き続き就労の視点を含めた情報共有や協議をする。 ○就労促進セミナーを実施し、さらなる情報発信と啓発を行う。 ○繋がりのある企業から信頼され、満足できる関係を築くことができるような取組を工夫する。
地域社会とつながりながら生きる力の育成	○自治的活動の推進 ～生徒が考え，社会をつくる～	○気持ちの乱れにより規範意識が低い生徒がいる。 ○自治的活動に関心を持ち、自主的に活動に取組もうとする生徒は少ない。 ○自分なりの考えを持っている生徒や考えを広げたいと思っている生徒がいる。	○よりよい学校生活を築くために生徒が自発的に課題等を見出し、改善策を考えている。	○生徒会執行部を中心に生徒の意見を集約・整理・問題提起等する活動を通して、社会づくりの主体であることを実感させる。 ○生徒総会を年２回実施し、学校生活の課題等について話合う場を設ける。	○校内レクや琴フェスの学校行事では、生徒会執行部を中心に自分たちから動こうとする前向きな姿が多く見られた。 ○生徒会執行部の動きとして、新しい提案については、校則につながる様々な社会課題を自分事として考えようとする態度が見られた。よりよい学校づくりを目指して、生徒総会等で全校生徒に様々な情報や自分たちの思いを発信していこうと見通しをもって活動できた。	A	学校行事の企画に生徒が主体的に関わる等、生徒会活動を中心とした生徒の自主性・主体性を伸ばす取り組みを継続していきたい。
		○寄宿舎行事や活動ごとに実行委員を設け、企画・アイデアを出し合い、舎生主体で実施していけるように考えている。しかし、行事間が短いときは準備期間が短く、十分に検討を重ねる時間をもてず、指導者主導の企画や運営になることがある。	○舎生が琴海会の活動や行事の企画・運営に主体的に関わることができる。	○可能な限り早い時期から実行委員を設け、十分な準備期間の中で舎生が企画・運営できるようにする。また、舎生全員が係に所属し、琴海会の一員として関わっていけるよう複数の係を設定する。 ○引き続き、舎生が意見やアイデアを出し合える機会を多く設定する。	○琴海祭以降の行事では、十分な準備期間を設け、係を設定したことで舎生全員が行事に関わりをもち、主体的に企画、運営することができた。	A	○来年度は、４月の歓迎会から全ての行事で舎生が主体的に企画や運営に関わっていけるよう前年度から準備を開始し、全員が行事に関われるよう係を設ける等の取組を続けていく。
		○大会参加ができるようになり、生徒たちが自主的に取組むようになった。 ○パラスポーツ大会に参加する生徒が増えてきた。 ○部活動参加率が年々減少している。 ○参加できる大会やイベントは増えてきてはいるもののまだまだ少ない。	○生涯を通して、文化的体育的な活動をしようとする生徒が育っている。 ○地域の中で、運動や文化活動に参加できる環境が整っている。	○大会の情報をしっかり案内し、大会の様子を知らせていく。 ○退部する生徒について、転部できるように勧めていく。 ○顧問会を中心に、魅力ある部活動になるよう練習内容を検討する。	○部活動に所属していない生徒の、陸上大会やバドミントン大会への参加が増えた。 ○１，２年生で年度途中に加入する生徒が増えた。 ○全職員で協力できる体制ができつつあり、部活動を楽しみにしている生徒が多くなってきた。	B	○取組の継続 ○FIDなどの外部チームへの参加を呼びかける。 ○部活度運営について、生徒とともに見直しを図る。
	○啓発・広報活動の工夫 （保護者、地域住民、小中学校、企業に開く）	○閲覧者に必要な情報が盛り込まれている学校ホームページやFacebookを随時更新し、YouTube等での学校の魅力発信に意識して取組むことができた。 ○地域や学校への公開や広報活動を、来校者の現状に合わせて拡大することができた。	○Facebookや学校ホームページ、学校だより、YouTube等の様々な媒体で、地域や企業、入学を検討している生徒に対し、学校の啓発・広報活動が進められている。	○学校の魅力発信を意識して、閲覧者に必要な情報が盛り込まれている学校ホームページやFacebookを随時更新していく。 ○地域や学校への公開や広報活動を工夫していく。	○校内の様子、校外学習の様子等をFacebookや学校ホームページに毎日アップし、学校の啓発・広報活動に努めた。その結果、アクセス数が特別支援学校でトップとなった。 ○今年度は、地域からも多数来往され、本校の施設や生徒の活動を見学された。見学者のニーズに合わせて資料や説明を工夫した。	A	○様々な媒体による学校の啓発・広報活動の内容充実や魅力アップを意識し取組んでいく。
		○体験入学希望者があまり増えない状況にある。 ○職業的・社会的自立を見据えた進路指導のあり方に課題を感じている学校が多いが、進路選択に向けた具体的な情報はなかなか伝わりきれていない。	○「琴の浦の教育」について発信したり、地域の関心や課題に応えたりするための工夫ができている。	○本校の教育により関心を持ってもらうだけでなく、地域の課題やニーズを吸い上げるための工夫もする。 ・将来像の見えやすい情報提供 ・事前アンケートの実施 ・オープンスクールの実施 ○県や地教委等と連携し、地域へのPR活動を実施する。	○県や地教委等との連携により、発信の場を広げられた。 ○顔合わせやアンケートをきっかけとした相談活動とその後の地域支援活動の実施のように、継続的に支援につながっているケースがある。 ○オープンスクールの分散型実施（３回）	A	○他機関連携の機を捉えたり、アンケートの方法や内容を見直したりしながら、地域が求める情報やニーズを把握し、相談・支援につなげていく。 ○相談後の経過の聞き取りや確認を通して、継続的に地域支援活動を実施する。
働きやすい職場・成長できる組織作り	○校内研修・授業研究の工夫、（人材育成をベースとした業務改善、時間外業務縮減等）	○時間外勤務の割合は減ってきているが、時間外業務の縮減が課題となっている。（R５年間３６０時間を超える職員が数名いる）	○引き続き、業務改善を図り、時間外業務を縮減する。（月４５時間・年間３６０時間内）	○定期的に給与・勤怠システムを各自が確認し実態把握する時間を設定する。 ○継続して衛生委員会で時間外業務等の状況を確認し、年間を見通して業務の進め方等を工夫し、時間外業務の縮減につなげる。 ○各行事・活動等の計画・実施について、ねらいや状況に応じて見直しを行い、業務改善を図る。	○月４５時間以上の時間外勤務の職員は１１月以降は０人となっている。年間３６０時間を超える職員が本年度は１名と減っている。衛生委員会において時間外業務や健康状況等の確認や検討を行い、声かけ等を行ったり衛生委員会の協議事項等を掲示板で周知している。	B	○来年度も定期的に給与・勤怠システムを各自が確認し実態把握する時間を設定し、年間を見通した業務の進め方となるように引き続き声かけを行う。
		支援部・教務部 （再掲）					

評価基準　A：十分達成　B：概ね達成　C：変化の兆し　D：まだ不十分　E：目標・方策の見直し
〔100%〕　〔80%程度〕　〔60%程度〕　〔40%程度〕　〔30%以下〕